

講義名	対)教養特講 (交通輸送ビジネス入門)			
担当教員	栗原 正憲			
開講期・曜日・時限	前期 金曜日 3時限	授業形態	講義	
履修開始年次	1年生	単位数	2	備考

**主題と概要**

今日までの交通輸送手段の発達に伴い、公共交通輸送機関が日本経済の成長、観光産業の振興、さらには人々の移動・交流促進によって地方活性化へ果たしてきた役割は大きく、高齢化の進展と共にますますその重要性は高まりをみせている。本講義では、鉄道・航空・バス・船舶などさまざまな公共交通輸送機関の発達の歴史や社会的役割を学修し、最新トピックスや映像資料を交えながら交通輸送事業全般を幅広く理解して、現状の課題や将来像について考察する。

**到達目標**

交通輸送事業に興味を持ち、幅広く視点から交通事業を見ることができるようになる。  
 交通機関に関する情報収集・分析ができ、現状課題や将来像について考察できるようになる。  
 多様なアクター間の課題を適切に協議し、想像力、課題解決力を発揮することができるようになる。

**提出課題**

授業の中で課題として随時小レポートの提出を求める。  
 特に課題演習の授業では、事前課題レポート・プレゼンテーション資料などの作成・提出を求める。

**課題(レポートや小テスト等)に対するフィードバック**

授業で課す小レポートは、次回授業の冒頭で出題意図と要点を解説して前回の学習内容を復習する。また、優れた小レポートを紹介するとともに、学生からの質問についても解説を行ない全員で共有する。

**評価の基準**

授業への参加姿勢(授業態度、グル、ブワーク参画、プレゼンテーション)	30%
課題レポートの提出と内容	20%
期末テスト	50%

**履修にあたっての注意・助言他**

交通輸送業への就職志望者、交通輸送機関の研究に意欲を持つ学生の履修を期待する。  
 さまざまな交通輸送機関に関する知識・情報を積み重ねていく授業であり毎回出席すること。  
 ビジスマナーを常に意識するため、授業では特に遅刻厳禁と服装の徹底を求める。  
 授業内容の理解を深めるため、教養特講「航空ビジネスへのいざない」を並行して履修することが望ましい。

教科書	.使用しない。				

**プリント資料及び参考文献**

毎回の授業で必要に応じプリント資料を配付する。また、参考文献は授業内で紹介する。

**授業計画**

- 1.オリエンテーション
- 2.交通事業の歴史と発展
- 3.JR鉄道事業
- 4.民間鉄道事業
- 5.バス・クルーズ事業
- 6.グループワーク(地方交通の課題提起)
- 7.グループワーク(地方交通の赤字改善事例)
- 8.グループワーク(地方交通の赤字改善アイデア)
- 9.グループワーク(プレゼンテーション)
- 10.航空事業
- 11.交通機関の果たす役割
- 12.交通機関のCSRと未来像
- 13.グループワーク(国内旅行のツアー企画)
- 14.グループワーク(ディスカッション)
- 15.グループワーク(プレゼンテーション)

**授業形態(アクティブ・ラーニング)**

ア:PBL(課題解決型学習)	イ:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)
ウ:ディスカッション、ディベート	エ:グループワーク
オ:プレゼンテーション	カ:実習、フィールドワーク
キ:その他(AI型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合)	

**準備学修(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間**

公共交通輸送事業は、環境を考慮した今後の交通政策やAI技術の進化によって抜本的な構造改革が求められている。毎回の授業で配布したプリントを使って交通輸送事業に関する用語や事業構造を確実に理解できるようにし、わからなかった箇所は質問事項を整理して次の授業に持ち込むこと(所要2時間)。  
 また、常に交通・経済・環境・観光関連ニュースに関心を持って最新情報の収集に努め、AI技術の進展や多様化する顧客ニーズへ各企業がどのような事業活動を展開しているのか、またその背景と狙いを考察すること(予習2時間)。

**卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連**

到達目標を達成することで共通DPに貢献できる。社会経済や観光産業を支えるさまざまな交通輸送事業を学修し、その企業活動と交通輸送事業に関する最新情報を収集分析して、現状課題や将来像を描く思考力を高める。また、交通輸送機関の仕事内容を学修し、就業につながる資質を高い能力を発揮できる人材をつくる。

**双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述**

2つの演習課題を行なうが、各自情報収集分析をもとに、グループワークを通して要点を整理しディスカッションしながら、課題解決につながる成果発表を行ないます。

**実務経験の有無及び活用**

「実務経験あり」  
 航空会社での勤務(本社部門、営業部門、空港部門、客室乗務員部門、整備部門など)の実務経験を生かして、さまざまなエピソードを交えながら交通輸送事業全般の魅力を伝える。

**備考**

履修学生が一時的に通字困難になった場合は、対面授業の中での対応としオンライン授業への移動は行なわないので健康管理等に留意すること。